

議会だより はこね



新規採用職員と一緒に記念撮影！

主な内容

- 一般質問 P 2～5
- 議員活動報告 P 13～15
- 1月臨時会、3月定例会・賛否 P 6～7
- 議長フォトレポート P 15
- 予算質疑 P 8～9
- 6月定例会の日程、議会報告会案内 P 15
- 予算討論（賛成・反対討論）..... P 10
- 箱根百景・編集後記 P 16
- 委員会・議会活動報告 P 11～12

町の考え方を問う！

一般質問



3月定例会では、町政全般について、7人の議員が、13項目にわたる一般質問を行いました。質問者及び質問項目は、左の通りです。原稿については質問議員が作成しています。なお、掲載にあたっては紙面の都合上、質問内容、回答共に、抜粋したものととなっておりますので、ご了承ください。

質問者	質問内容	ページ
勝俣 陽二	町内における路線バスの料金に対する補助	2
山田 成宣	足柄幹線林道の一般道化を含めた新たな道路整備の必要性	3
折橋 尚道	ふるさと納税、より選ばれる自治体となるにはふるさと納税、新たな返礼品開発に関する取り組み	
勝俣 泰彦	迷惑防止条例の制定 多言語対応窓口等の設置	4
鈴木 美貴	防災力の強化 持続可能なまちづくり 健康増進・コミュニティの活性化	
丸子 英人	町長施政方針	5
山田 和江	ガソリンスタンドの閉鎖 バス代の負担軽減 雪害対策	

※2次元コードを読み取ると、各議員の一般質問動画がご覧になれます。

路線バスの高額な料金に対する町の補助を

勝俣 陽二 議員



町

現在のところ考えていない

問

現在、路線バスの料金に対する補助としては高齢者バス回数券等購入費助成及び高等学校等通学費補助を行っている。これらの助成制度の対象外で、路線バスを利用せざるを得ない町民の方々に対して、生活の利便性の向上、定住の促進及び誰もが住みたくなる、より良い生活環境のまちづくりの観点から、町内における路線バスの高額な料金に対する補助を検討していただきたいが、町長の見解を伺う。

答

町長 現在、町では65歳以上の方々を対象として、回数券の購入金額の35%を助成する。高齢者バス回数券等購入費助成制度、高等学校に通学している生徒のいる保護者の方々を対象として、通学費の一部を補助する高等学校等通学費補助制度、障がい者の方々を対象として、施設に通所する交通費を助成する障がい者等

施設通所者交通費扶助制度など、バスに限らず公共交通機関全般の交通費の助成を行っており、生活の利便性向上や定住化の促進のための移動支援策として、様々な施策を実施している。一般の町民の方々を対象とした交通費の助成については、現在のところ考えていない。



仙石原付近

足柄幹線林道の一般道化を含めた新たな道路整備について

山田 成宣 議員



町 新たな道路整備を推進!!

問 湯本駅前を起点とする国道1号線の交通渋滞は町民生活や観光周遊、事業活動に大きな影響を与えている。このまま放置すれば箱根のブランド力にも影響しかねない。交通の集中を分散化する代替ルートの確保や新設道路ネットワーク強化が必要である。道路整備のあり方について町長のビジョンを伺う。

答 と、直接黒岩県知事に国道1号線の交通渋滞の解決が喫緊の課題であることを訴えてきた。これからも県知事に対し新たなバイパスやトンネルの開通、足柄幹線林道を県道としていただくよう働きかける。町民のため、観光客の利便性向上のためこれからも県と調整していく。

問 国土交通省や県知事等ネットワークを活用して渋滞解決に向けて道路新設を含む働きかけを進め

るので、町長もそれに向けて頑張ってください。

町長 解決に向け神奈川県小田原警察署、箱根町が一丸となって諸問題に強く対応していく。

問 降雪時、スタックした車により大渋滞を引き起こした。スラッドレスタイヤやチェーンを装着していない車を箱根に入れない検問所の設置も県に対し要請すべき。

答 検問所を設け、少なくともトラックなど大型車だけでなく通行させないようにしなければならない。そのために、関係機関に要望していく。



ふるさと納税、より選ばれる自治体となるための改革を

折橋 尚道 議員



町 寄付額も年々増えているので引き続き努力していく

問 町の返礼品の総数は、寄付額の多い自治体と比べると数が少ない。今後、ホテル旅館が個別に提案する宿泊券や、飲食店が企画する新たな返礼品を掲載していくべきである。

答 返礼品登録には国の地場産品基準の確認が必要で、特に物品は原材料や製造が町内で完結していなければ認められず、基準強化により新規開発は困難な状況。10月からは付加価値の過半数が域内で生まれていることの証明も義務化され、事業者へ提出を依頼している。このため、物品よりも宿泊や体験型返礼品の充実を図る。宿泊券は町のブランド力を活かせる現行方式が最適と考えており、食事券は体験型と併せて追加を進めていく。

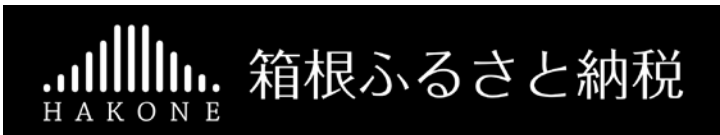
問 ふるさと納税は今後、自治体間の競争に発展していく、強化策として民間事業者を含めた専任

チームを組織すべきでは。活用して対応したいと考えている。そのうえで、専任チームの必要性が生じた場合には、設置に向けた検討をしていく。

町長 事業を一括管理しているJTBのプラットホーム

問 中間業者選定には入札やプロポーザルの実施をすべきである。

答 以降のふるさと納税の制度変更により、中間事業者の委託料などの見直しが必要となるので、選定方法についても検討していく。



迷惑防止条例の制定

勝俣 泰彦 議員



町 既存条例等の活用・施策の運用徹底、関係機関と連携し悪質な事例には厳正に対処する

問 民泊の増加により、騒音問題・ごみ出しルール違反等複数の事例が報告されている。民泊の現状認識と苦情内容等は。

答 町長 神奈川県小田原保健福祉事務所への民泊の届け出件数は令和7年12月現在、全体で72件である。内訳は湯本地域5件・温泉地域2件・宮城野地域9件・仙石原地域46件・箱根地域10件。苦情内容等は令和元年度から7年度までが19件で、主な内容は騒音・ごみ出しや管理者不在等の苦情であり、事業者及び管理者に指導や資料提出を求め、改善確認等を行っている。

問 条例制定の必要性は。

町長 外国人観光客の増加や、民泊の普及に伴い、静穏な生活環境の維持や、ごみ出しルールの遵守等の課題が顕在化していること

は重要視しており、町民が平穏に暮らせる環境を守ることが行政の責務であると認識している。ごみ出しルール違反は「箱根町廃棄物減量化・資源化及び適正処理等に関する条例」に基づき、違反者に対する指導の根拠は有しており、騒音等の問題も「箱根町環境基本条例」他により規制が設けられている。また、民泊事業開始にあたっては、町作成の「民泊の手引き」で周知徹底しており、このように、既存の条例等により規制や指導を行う枠組みが整備済みであり、関係機関と連携し、現行規制の周知・啓発に力を入れていく。



新たに「モルック」を推進した経緯は？

鈴木 美貴 議員



町 令和6年度日本で世界大会開催で話題性があつたため

問 新たに開催するニュースポーツ教室の内容は？

答 町長 町では、町民の健康増進及びスポーツイベントを通じた多世代間交流の目的で、ニュースポーツ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーの3つの町主催大会を開催している。令和6年度から生涯学習課で推奨している「モルック」に関する教室を開催している。

問 育館の知名度アップに繋がると期待している。また、その他のニュースポーツの推奨に向けた考えは？

答 生涯学習課長 新たなニュースポーツについては、幅広い年齢層が親しむことができ、多世代間の交流が図られるといった視点で導入を考えている。その中で、ピックルボールも選択肢の一つであり、また、ほかのニュースポーツについても検討していく。

問 「ピックルボール」が最近話題となっている。当町でも愛好家が団体を立ち上げ、東急ホテルグループの中にも、ピックルボールコートの導入が広がっており、当町の関連施設にも導入されると、ピックルボールの普及促進に繋がると期待を寄せている。小田原市でも、ピックルボールの大会が開催されたことから、「星様レイクアリーナ箱根」に大会を誘致し、総合体



モルック



ピックルボールのパドルとボール

公共交通の課題とAI活用による町職員の労働環境改善について



丸子英人 議員



町 必要に応じ対応していく

問 公共交通の利便性低下は住民にとって死活問題だが、交通事業者もまたバス運転士不足の問題に直面している。これら課題に対する町の考えを伺う。

答 **町長** 下郡3町と小田原市及び各交通事業者が運転士募集イベントを開催しており、事業者と共に公共交通の維持に向けた取り組みを進めていく。

問 生成AIの活用は労務軽減に有効で国レベルでは活用が進む中、町の取り組みはどのような状況なのか伺う。

答 **町長** デジタル化の推進により、利便性の向上と行政運営の効率化が成果を上げており、誰一人取り残されないデジタル化の推進についてはスマホの使い方教室等を進め、LINEアプリの活用につなげていく。

問 熱中症対策や職場の設備についての課題等、町職員の働く環境についてはこれまで度々確認してきたが、町長施政方針ではほぼ触れられていない。改めて伺う。

答 **町長** 副町長を安全衛生管理者とする委員会を設置し、安全衛生計画の策定と実施を進めている。施設面では「公共施設等総合管理計画」と「個別施設計画」を策定し「第2期公共施設再編整備計画」と併せて計画的に改修することを基本とするが、緊急性の高い場合は補正予算等で対応していく。



スタンド閉鎖が全国に発信された、どう受け止めたのか



山田和江 議員



町 真摯に受け止め事業者の誘致をあきらめてはいない

問 宮ノ下のガソリンスタンドもいよいよ3月31日で閉鎖になることで住民の不安も高まっている。マスコミ報道で全国にガソリンスタンドの閉鎖が発信されたが、町長はどのように受け止めたのか。また、消防車両については残量をチェックし、こまめに給油してスタンド閉鎖の影響を最小限にとどめるとのことだが災害発生時にもそれは可能か。

答 **町長** 箱根のネームバリューである真摯に受け止め、将来に渡り燃料の安定供給の確保を検討するよう指示した。私自身事業者の誘致をあきらめてはいないので、関係者と意見交換を行っている。消防車両については消防署や消防団に携行缶で予備燃料を備蓄し災害発生時に支障をきたさないように万全の体制を整えている。

問 バス代の負担軽減について、中学生の料金を子ども料金にするように国に働きかけること、高齢者サポート事業を拡充して「敬老バス」制度を実施できないか。

答 **町長** 鉄道営業法を順守し、助成は考えていない。敬老バスの導入も考えていない。雪害対策について、検問所を設けて雪道仕様の車だけ通行させること、湯本大橋付近に道路情報板を設置すること、バスが止まった際の観光客対策を伺う。

答 **町長** 関係機関に要望、打診をしてみたい。



閉鎖されたガソリンスタンド

1 月 臨 時 会 (1月14日)

議 決 件 数 (2件)

専決処分 (1件) 承認

議案第1号 物価高対応子育て応援手当関連経費 1,659万6千円

補正予算 (1件) 可決

議案第2号 令和7年度箱根町一般会計補正予算(第5号)
物価高騰対策定額給付金給付事業(町民1人5,000円を配付した事業) 5,879万2千円

3 月 定 例 会 (2月18日~3月17日)

議 決 件 数 (35件)

専決処分 (1件) 承認

議案第3号 衆議院議員選挙関連経費 1,264万6千円

条例改正 (11件) 可決

- 議案第4号 箱根町職員の旅費に関する条例の制定
- 議案第5号 箱根町職員の給与に関する条例及び箱根町非常勤職員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第6号 特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第7号 箱根町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第8号 箱根町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例及び箱根町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第9号 箱根町介護保険条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第10号 箱根町立宮城野保育園条例等の一部を改正する条例の制定
- 議案第11号 箱根町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第12号 箱根町景観条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第13号 箱根町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定
- 議案第14号 箱根町火災予防条例の一部を改正する条例の制定

補正予算 (5件) 可決

議案第15号 令和7年度箱根町一般会計補正予算(第6号) 補正額 4,132万4千円

主な内容

(歳入)

- ・行政財産使用料追加 232万9千円
- ・障がい者自立支援給付費等国庫負担金過年度分 760万4千円
- ・住宅・建築防災力国庫補助金更正減 -9,004万5千円
- ・ふるさと納税寄付金追加 1億円

(歳出)

- ・ふるさと納税促進事業追加 4,672万円
- ・要緊急安全確認大規模建築物耐震化補助事業更正減 -9,066万9千円
- ・国民健康保険特別会計繰出金追加 100万円

- ・繰越明許費※の補正
- 清掃第2プラント施設維持管理事業 2,365万円
- 消防車両整備事業 2,842万1千円

※繰越明許費：経費の性質上又は予算成立後の事由に基づき、その年度内に支出を終わらない見込みのあるものについて、議会の議決を得て翌年度に限り繰り越して使用できるようにする予算をいいます。

議案第16号 令和7年度箱根町国民健康保険特別会計補正予算(第3号) 補正額 4,000万円

療養給付費追加・出産育児一時金追加その他

議案第17号 令和7年度箱根町介護保険特別会計補正予算(第2号) 補正額 84万2千円

神奈川県町村情報システム共同事業組合負担金追加

議案第18号 令和7年度箱根町温泉特別会計補正予算(第1号) 補正額 3,000万円

温泉基金積立金追加

議案第19号 令和7年度箱根町公共下水道事業会計補正予算(第3号) 補正額 896万円

国庫補助金(歳入)追加

新年度予算(12件) 可決 (予算質疑8~10ページ)

第20号~第31号 令和8年度箱根町一般会計予算及びその他11会計予算

工事請負事業設計変更(2件) 可決

議案第32号 箱根旧街道保存活用整備工事(畑宿千鳥橋上地区)
設計内容変更 612万7千円追加

議案第33号 箱根関所復元施設再整備工事
設計内容変更 770万円追加



追加提出議案(4件) 可決

議案第35号 令和7年度箱根町国民健康保険特別会計補正予算(第4号) 補正額 126万2千円
高額医療費追加 126万2千円

議案第36号 令和7年度箱根町水道事業会計補正予算(第2号) 補正額 150万円
手当等 150万円

議案第37号 令和7年度箱根町公共下水道事業会計補正予算(第4号)
継続費の補正

議案第38号 箱根町指定金融機関の指定について
今後の指定銀行を横浜銀行・さがみ信用金庫の2金融機関の輪番制とする

議会議事案件(1件)

議案第34号 総合計画・都市計画マスタープラン審査特別委員会の設置に関する決議

「次期総合計画及び次期都市計画マスタープラン」の策定について、議会も積極的に関わる別委員会を設置した。

議員別議案賛否一覧

議案採決表は賛否が分かれた議案のみ掲載をしています。そのほかの議案採決はすべて全員賛成で議決されました。

Table with columns for proposal number, name, decision result, and individual council members (Yamada, Kato, Suzuki, etc.).

議案の詳細等につきましては、こちらをご覧ください

【1月臨時会】



【3月定例会】



※ ○:賛成 ×:反対 欠:欠席 -:議長は採決に参加しません。

地域観光行事助成事業の補助対象行事とは

鈴木 美貴 議員



Q 地域観光行事助成事業の対象となっている具体的な行事と「湯本夢夏祭り」が対象とならない理由について。

A 令和8年度は町内12の行事に助成しており、地域を代表するような、主に夏に実施されるお祭りで、各地域への誘客の促進と町全体の活性化に繋がっている観光行事と考え、「夢夏祭り」は地域の子供たちのために始まり、周知についても、実行委員会の希望で、湯本地域のみとしており、地域のお祭りとして捉えている。

Q 観光行事となる必要条件は。

A 明確に定めた基準はないが、経済効果を意識し、観光客の誘客を目的としたものと捉えている。

令和8年度予算を審議 3月議会の主な質疑応答

3月議会（2月18日～3月17日）では令和8年度の予算質疑が行われ、災害対応、子育て支援、観光支援政策など、現在箱根町が抱える様々な行政課題について、各議員から活発な質疑がされた。

質疑内容がスマホで見れます



詳しくはこちら

仙石原小学校の老朽化について (学校長寿命化事業)

丸子 英人 議員



Q 仙石原小学校に対し耐力度調査の予算が計上されているが内容を伺う。

A 建物の構造耐力、経年による耐力機能低下、立地条件の3項目を老朽化の観点から総合的に評価する調査で、これは建替えや改修に伴う国費補助の要件となっている。

Q 建替え及び改修事業の実施に際しては利用者である地域住民の意見を広く集める事が肝要だが、調査結果が出る時期はいつか。

A 調査対象が4棟あり築年数もそれぞれ異なる事情はあるが、調査結果は令和8年9月までに取りまとめ、基本・実施設計に繋げていきたい。

町営住宅の風呂釜設置は

町負担で

(町営住宅整備事業)

山田 和江 議員



Q 町営住宅の中には、入居者が風呂釜を設置する場合があるが、町負担で設置する考えはないか。

A 入浴は心身を健康に保つために必要な生活行動であると考え、町負担による風呂釜の設置について、今後の検討課題の一つとしていきたい。

Q 部屋を退去しないまま行方知れずになっていたり、亡くなった後の退去手続きができていない部屋があると聞いているが、手続きを踏み新しい入居者を募るべきではないか。

A 連帯保証人などと連絡取れず対応に苦慮している。他市町村の事例等を調査研究していきたい。

歳出総額1億6,138万円、 予算計上しての責任は (箱根湿生花園費)

勝俣 陽二 議員



Q 令和8年度において、箱根湿生花園費として歳出総額1億6,138万円のうち、人件費として1億228万9,000円を計上しての運営となるが、その責任をどう感じているのか伺う。

A 周辺に美術館等の集客施設が増えたことで箱根湿生花園単独で観光客を招き入れ、地域の賑わいを創出する役割を果たすことが相対的に難しくなっている状況だが、今後については周辺の施設と連携しながら、集客の強化につながるような企画やイベント、世代を問わず訪れてみたいと思わせるような展示内容の充実を力を入れて、地域活性化の一助につなげていく。

高齢者サポート事業 扶助費の現状について

勝俣 建吾 議員



Q 高齢者バス回数券購入費助成事業は運転免許返納者が増加していく中、外出支援および健康増進、介護予防の観点からも大変有効である。バスの運賃が改定されている中、今後、助成率を引き上げる事を検討していただけないか。

A 箱根登山バス(株)が実施していた「ハーフ65」を令和2年11月に終了したことによる代替として町が創設した事業であり、当初25%の補助率で開始した。令和5年度からは補助率を35%に引き上げ、利用者の負担軽減や利便性の向上に努めてきており、現時点では、これ以上、助成率を引き上げる予定はない。

(仮称) 温泉地域診療所建設事業

折橋 尚道 議員



Q (仮称) 温泉地域診療所建設事業の開院までの道筋は。

A 秋の開業を目指して、工事は順調に進んでいる。医師は、柏崎曉氏、年齢は現在60歳。現在、横浜市「独立行政法人地域医療推進機構 横浜中央病院」に勤務しており、外科を専門として医療に従事している。開業後は内科を中心に外科も含めた総合的な医療を行う予定である。秋の開院にあたって、医師も町民に広く知ってもらふ機会を設けたいという考えを持っており、内覧会のようなものを実施したいと聞いている。

带状疱疹ワクチン接種事業

川口 延明 議員



Q 最近、带状疱疹の予防接種推奨を聞くようになった。原因は何から始まったのか。大方の医療者がコロナ禍以降増えているとも言っており、特に後遺症に気をつけるため予防接種を推奨しているようであるが、町の取り組みは。

A 带状疱疹については、50代から発症リスクが高まり、70代にピークを迎え、80代までに3人に1人が発症するとされている。ワクチン接種が高い予防効果を持つことから、令和5年からワクチン接種を推進している。通常は接種をすることで後遺症（個人差があるが重症化する場合もある）が軽減され、通常生活の質の低下を免れることもできる。

地震等災害対策事業

勝俣 泰彦 議員



Q 主な事業概要は？

A 防災備蓄品・資機材等の整備保管、訓練や研修等を通じた防災力の強化、防災行政無線の修繕などを行う。主な予算額は、防災備蓄品・資機材等の整備保管等265万6千円、防災倉庫新設1,179万5千円、防災訓練用消耗品他128万9千円、防災行政無線修繕料他52万5千円など、事業費合計1,961万9千円計上。

Q 土のうステーションの運用方法は。

A 町内35箇所に設置、令和8年度は使用実績を基に400袋計上、1箇所につき50袋を準備し、補充は年2回を予定。被害が予想される場合は、皆さんが持ち出し災害に備えていただくが、高齢の方など持ち運べない場合は、自治会等の共助により活用いただきたい。

森のふれあい館等利活用事業

山田 成宣 議員



Q 来館者の減少や施設の老朽化、維持管理に莫大な経費のかかる施設の運営について。民間事業者には森のふれあい館を業務委託したらいかがか？併せて、地元自治会や観光協会と一層緊密に連携を図っていただきたい。

A 令和8年度は760万円を計上し、今後の持続可能な施設運営を図る為、民間事業者の持つノウハウや企画力で森のふれあい館の活用を図る。事業者コンサルタント料を支払い、プロポーザルを行い民間事業者を参入させ単なる施設運営の見直しにとどまらず、箱根地域周辺の活性化および観光振興への波及効果を見据えた取り組みを行う。今後は地元の自治会や観光協会と連携を図り、地域の皆様のご理解とご協力を賜りながら事業を進めていく。

湯本地区公共施設利活用事業について

沖津 弘幸 議員



Q 事業化に向けた検討について。

A 民間事業者を公募するための貸付条件や事業手法等の前提条件について、個別ヒアリングや他団体の事例等を整理し夏頃に公募資料の公表を行い、令和9年1月以降に審査を経て、優先交渉権者を決定し、令和8年度中に契約締結のスケジュールとなっている。

Q 今回の事業化にあたり町で広く地域住民の声を傾け進めているが、今後の考えについて。

A 協議会は事業者選定委員会に関わっていただき、公募条件がまとまった段階で説明会を開催し、協議会の意見書を尊重し地域と観光客に望ましい場所となるように事業を進める。

公園整備事業

稲葉 親太郎 議員



Q 宮城野園地の桜の木、樹木診断業務委託を行う予定は？

A 宮城野園地内の桜並木は、老木が目立つようになってきたことから、今後の保全を計画的に進める必要がある。そこで、樹木医による基礎調査を2ヵ年で実施し、桜の正確な本数や状態を判定するとともに、今後の保全に向けた基礎資料を作成していく。

Q 基礎調査終了後の流れは？

A その結果を踏まえて、対応する木を抽出、外観診断を行い今後の桜並木の保全に向けた、具体的な対応策を検討し進める。

討 論

私たちは予算案をこのような理由で賛成／反対しました

日本共産党 反 対

一般会計は、「景観町づくり事業」において、当町での開発に多くの町民の声が反映され届け出基準の見直しが予定されていることは評価したい。しかし、26年度予算には事業者や町民から重い負担との声がある固定資産税の超過課税に加え、130人の80歳への敬老祝い金（65万円）の廃止や、「森のふれあい館」の民間委託が計画されている。すでに「箱根湿生花園」の指定管理者制度が破綻した教訓が何も生かされず、税金で作ったものを、老朽化したから、収益が上がらないからと、簡単にコンサルに任せ、民間委託にすることは到底認めることはできない。国保会計は、保険料に上乘せされて「子ども子育て支援納付金」が徴収され負担増となること。後期高齢者医療会計は、保険料の値上げと国保同様に「子ども子育て支援納付金」が徴収されること。介護保険会計は26年度のみ、特例で昨年の給与所得控除を反映しない保険料となることは認められない。

至 誠 会 賛 成

国際観光地箱根にあっては、基幹産業の観光業は回復基調にあるが、今後は他の観光地との激しい競争が予想され、交通渋滞や人手不足といった町を取り巻く問題は深刻さを増していることから、社会経済情勢の先行きが不透明な中でも、直面する課題に対応することが求められている。

令和4年度からスタートした第6次総合計画後期基本計画が最終年度となり、これまでの総仕上げと並行して取り組みの検証を行い、次期計画に町の将来像を描く重要な一年である。

財源不足の拡大が見込まれる状況にあって、持続可能な行財政運営を行うためには、中長期的な視点でサービスの充実や維持と負担のバランスを考え、各種取り組みを推進していく必要がある。

令和8年度は町制施行70周年という節目の年でもあるが、暮らしと観光の好循環を実現し、先人から受け継いだこの箱根町をさらに発展させ、未来に繋げていくためにも、職員一人ひとりが創造力を発揮し、より一層の未来志向で取り組んでいくことを要望する。

緑風クラブ 賛 成

令和8年度予算編成は前年に続き、当町が柱としている第6次総合計画後期基本計画に沿った予算の編成がされており、目標に沿った予算組である。

しかし、現在の大きな課題として湯本駅付近の交通渋滞や働き手の不足による民間の営業収益の伸び悩みがある。これらは総力を挙げて解決してほしい。

町税収入は増収を見込んでいるが、町営の箱根関所や湿生花園の大型観光施設が対前年の予算に対して減額で予算編成を行っていることは、考えさせられる点である。

関所が対前年予算より1,100万円少ない9,700万円の予算、湿生花園が430万円少ない3,200万円の予算であるので、稼げる体制をしっかりと組み、基本の誘客営業に努めるように願いたい。そして民間が目標とするような事業所それぞれの収支で採算が図れるように指導をしてほしい。

今年度は新規の事業で「地域福祉計画等策定事業」、「小学校教育設備整備事業」、「町道湯2号線道路改良整備事業」、「物価高対策省エネ設備等更新促進事業」、「食品ロス対策推進事業」、「HOT21観光プラン策定事業」が計上されているが、それぞれ高い成果が出るように取り組んでいただくように願う。

※掲載は討論順です。

委員会・議会活動報告

2/6

教育福祉環境常任委員会 中間報告

教育福祉環境常任委員会 委員長 川口延明

令和7年12月定例会で付託案件となった「箱根町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等」に関する条例の一部を改正する条例の制定については教育福祉環境と総務企画観光の両常任委員会合同で審査し、1月22日、2月6日、3月3日に会議を行い、また町民からなる関係4団体とも2月5日に率直な意見交換を実施しました。本議案は町長諮問の廃棄物減量等推進審議会（7名の委員（学識経験者3名、町民1名、関係団体代表者3名）で構成）が5回の会議を経て、実施時期の答申をしたものでありますが、

委員からは、

- ①事業者の意向にもう少し配慮する必要があるのではないか。
- ②小規模の事業者のごみ処理について不公平感が存在しているのではないか。
- ③本条例施行のタイミングなどについて、

さらに委員会として幅広く意見を求め慎重に審査をする必要があると思われることから、採決の結果、全会一致により継続審査とすることに決定いたしました。



意見交換会の風景



委員会協議の様相

1/9

熱海・箱根・湯河原広域行政推進協議会観光展

JR横浜駅で熱海・箱根・湯河原広域行政推進協議会観光展が6年ぶりに開催され、村野議長、稲葉副議長、広域行政調査特別委員会委員長の沖津議員が参加しました。

当日は、誘客促進のために各市町の議員と職員が観光パンフレットの配布や観光案内などを行い、宿泊券や施設の招待券、各市町の物産品などが当たる抽選会を実施しました。
(沖津弘幸)



横浜駅 観光展ブース前



横浜駅コンコース



1/23

観光振興議員連盟視察



観光地はフードロスに関する課題を抱えています。箱根町も食品ロスに関する新たな取り組みとして、旅館・ホテルから廃棄処分されるフードロス対策に関する実証実験が、箱根DMOと協力を得ているホテル旅館との間で実施されました。排出された食品廃棄物の受け入れ先は、相模原市にある株式会社日本フードエコロジーセンターで、この会社は「『食品ロス』に、新たな価値を。」として関東近県のスーパーなどの食品関連事業者と提携して集められた食品廃棄物を加工して、養豚農家に飼料として供給し、今ではブランド肉「優とん」として販売されています。（折橋尚道）



2/6

箱根町議会・小田原市議会 議員間交流事業（研修会）

箱根町議会と小田原市議会との議員間交流事業を実施いたしました。

「箱根町及び小田原市におけるごみ処理の諸課題について」をテーマとし、箱根町環境整備部環境課と小田原市環境部環境政策課の職員を招き、研修会を行いました。（稲葉親太郎）



議 員 活 動 報 告



皆さんの日常的な活動に参加し、報告していきます。情報をお待ちしています！



3/1

芦ノ湖釣り解禁

毎年恒例の芦ノ湖の解禁日。近年稀に見る天候に恵まれ大勢の釣り人で大賑わい。特に昨年より芦ノ湖の名産、ワカサギの豊漁によりそれをエサとするサクラマスが近年では珍しくお目にかかれるようです。是非皆さんも、チャレンジしてみてください。
(山田成宣)



2/21

おたわSRフェス 2026

「誰もが安心して暮らせるまちを、共に育てる」をテーマに9回目を迎え、多分野の専門職などが、つながる地域共創イベントとして、2市8町から首長や議員も参加し、メインアリーナ・サブアリーナや芝生エリアでは、様々なイベントやキッチンカーも出店し賑わっていました。
(鈴木美貴)

3/21・28

宮城野桜ライトアップ準備作業

春の訪れを彩る桜の開花にあわせ、宮城野木賀観光協会主催（早川堤ソメイヨシノ及び国道138号線枝垂れ桜）のライトアップ準備作業を、地元有志の協力の下、3月21日、28日の2日間準備作業を行いました。
(稲葉親太郎)



3/16

仙石原地域整備協議会

仙石原地域の開発計画や課題、また新たなまちづくりに向けた挑戦的な取組を協議・推進するため、ひと月に2回の頻度で精力的に開催されています。今回は総会が行われ、地域への想いを共有すると共に参加者がそれぞれ得意な分野で活躍できるための組織改編について協議しました。
(丸子英人)

3/24

スマートごみ箱設置に伴うお披露目式

観光地で話題のスマートごみ箱が箱根園地に第1号として設置されました。特徴としてスマートごみ箱は、ごみが一定量たまると自動で圧縮するほか、クラウド上でごみの量を確認できるようになっています。このごみ箱は「(株)小田急箱根」から寄贈され従来よりも約5倍のごみを収容できます。町としては「ごみ対策は大変重要な課題」であり美化に一役買ってくれると期待しています。
(川口延明)



3/26

多言語音声案内サービスの 実証実験

早雲山駅で3月17～30日
実証実験が実施されました。

生成AIを活用し、観光
情報や施設案内等を分かり
やすくタイムリーに提供で
きるようにプログラムされ
ていました。

訪日外国人観光客をはじ
め多くの旅行者が楽しそう
に利用していました。



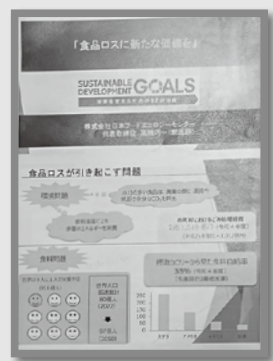
(勝俣建吾)

3/24

おでわら ゼロカーボン セミナー

「食品ロスと地球温暖化」
身近な問題について、一緒
に考えてみませんか？と
題して、箱根町でも実証実
験を行った、(株)日本フー
ドエコロジーセンター及
びさがみはらバイオガスパー
ワ(株) 代表取締役
高橋氏から、スーパーや食品工場
で余った食材を飼料にし養豚事業
に活用する他、食品残渣から作
ったメタンを用いた再生可能エ
ネルギー発電により、温室効果
ガスを抑制する取り組みにつ
いて、参加者から多くの質問
がありました。

(鈴木美貴)



3/27

仙石原湯立神楽奉納(伝承250年記念)

箱根仙石原神楽保存会の皆さんにより、
伝承250年を記念し、湯立神楽が仙石原諏訪神社で
奉納されました。

会場は地域の方々や多くの外国人観光客
で賑わい、舞終盤の「湯立の行」では、獅子
が笹の葉で煮えたぎった釜の湯を掻きま
わした湯を振りかけてもらい、盛り上が
っていました。

(勝俣泰彦)

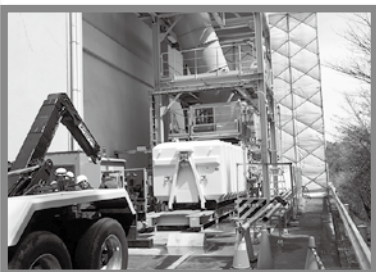
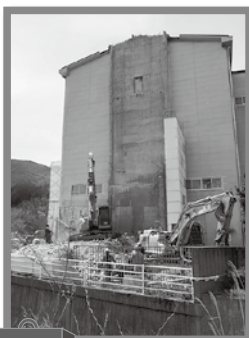
3/26

箱根湿生花園 世界の雪割草展

3月20～27日「世界の雪割草展」が開催
され、植物研究家の大野好弘さんから世界
中に分布する雪割草の説明がありました。

特に200株の雪割草と山野草による自
生地再現ディスプレイは素晴らしかった
です。今月発表されたばかりの新種が
世界で初めて展示されていました。

(勝俣建吾)



4/9

環境センター改修工事

改修中の環境センター、そびえていた煙突
がなくなって、工事が順調に進んでいる
ことが分ります。建物の裏には、ごみを
圧縮してトラックに積み込む機械がフル
稼働して、毎日9回湯河原美化センター
に搬送しています。町のごみ処理事業に
支障をきたさないように工夫しながら、
2月完了を目指して着実に工事進行中。

(折橋尚道)

4/8

仙石原すすき草原山焼き

延期となっていた「山焼き」がようやく
実施されました。前日の雨の影響もあ
り、火入れが厳しい状況にありましたが、
燃えだすとその熱さとともに、炎の迫
力に圧倒されました。この「山焼き」
により、今年の秋の「すすき」も楽し
みです。

(勝俣陽二)





神奈川県町村議会議長会主催 議長・副議長・事務局長合同研修会

令和7年度神奈川県町村議会議長会議長・副議長・事務局長研修会が神奈川自治会館にて開催されました。当町から、村野議長と稲葉副議長、石川事務局長が出席いたしました。

当日、神奈川県下13町1村の計14町村の正副議長並びに事務局長41名が出席される中、冒頭に本年議長会会長を務める村野議長があいさつを行い、続いて本日の講師であります中央大学名誉教授の佐々木信夫氏による「地方創生、議会はどうか『議会改革、議会はどうか変わるか』」の講演を聞きました。今後も箱根町における2元代表制の議会において、町民に開かれた議会を目指し、大義的には町民福祉の向上につながるよう議会活動に取り組んでまいります。
(稲葉親太郎)



議長フォトレポート

1
16金



箱根町老人クラブ連合会
新年会

2
25水



第33回やまなみ芸能大会

3
24火



スマートごみ箱の
寄贈に伴うお披露目式

6月定例会開催日 (予定)

本会議 6月10日、16日、19日

※6月2日開催の議会運営委員会において決定いたしますので、変更となる場合があります。

詳しくは、議会事務局(☎85-9570)までお問い合わせいただくか、町議会ホームページの議会カレンダーをご覧ください。



議会報告会を開催します

次のとおり実施しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

- 日時** 6月24日(水) 18時
- 場所** 総合保健福祉センター さくら館
2階 会議室
- 内容** 令和8年度予算審議等



どなたでも
ご参加
いただけます。

箱根町百景めぐり



芦ノ湖

昨年の夏以降でしょうか？ 降雨量が少なく、芦ノ湖も平常時より1メートル強の減水となっていました。3月に入り多少の降雨があったものの水位を平常時に戻す状況にはないため、水位観測地点の見学を行いました。

芦ノ湖の水位は725メートルと言われており水位計測は深良用水のコンクリート擁壁先端の722.7メートルを計測基点としています。芦ノ湖湖尻水門操作規則の第3条によると芦ノ湖（龍宮殿下）に取付けた水位計（標高722.7メートルを水位0.0メートルとする。）により測定するものとなっており、その基点に2.3メートルの水位を保つことで725メートルとされております。今回は芦ノ湖の水位が少なかったこともあり、普段は湖底に沈む「神代杉」も見ることができました。（川口延明）



令和2年平常水位時の水位計測機器



令和8年水位減少時の水位計測機器



令和2年平常水位時の「深良用水」水取入れ口



手前側は明治43年建造の水門
奥側は昭和62年建造水門



令和8年時点の水門



令和8年低水位時の「深良用水」水取入れ口



減水により水中から露出した「神代杉」



芦ノ湖東岸のナラ枯れ被害の「ミズナラの木」



編集後記

桜も終わり、新緑の美しい季節となります。自然は当たり前のように毎年繰り返していますが、それでも昨年とは違った様子を見せてくれます。

私たちの紙面作りでは、議会の審議内容を掲載しただけでは、堅苦しい紙面になってしまうので、割り振りを工夫して、議員活動の日常を紹介できるように心がけています。（折橋尚道）



広報広聴委員会

委員長

鈴木 美貴

副委員長

折橋 尚道

委員

丸子 英人 稲葉 親太郎

川口 延明